

夏の京都が暑いのは知っていたけど  
暑い、暑すぎる!

やっぱり地球温暖化の原因といわれている  
CO<sub>2</sub>が増えているの?



昔よりも使われるエネルギーが増えたから  
CO<sub>2</sub>の排出量も増えてるねん。

日本のCO<sub>2</sub>排出量の約4割が電力分野によるもので、  
「エネルギー」と「環境保全」は切っても切れない関係にあります。  
そんな今、CO<sub>2</sub>をはじめとする温室効果ガスを排出しない  
あらゆる対策が求められています。

地球温暖化の影響とみられる異常気象や森林火災が、世界中で報告されています。

地球温暖化の主な原因は、人々の活動によって生まれる温室効果ガスであると考えられています。  
近年、地球温暖化の影響とみられる猛暑や記録的な豪雨などの深刻な事態は日本だけでなく世界各地で起こっており、  
大きな被害をもたらしています。

世界の主な異常気象

- ・アフリカ:異常少雨による大干ばつ
- ・オーストラリア:異常少雨による大規模森林火災
- ・北米:大寒波
- ・米東海岸:大型ハリケーン
- ・イタリア:ベネチアでの高潮
- ・インド:熱波
- ・日本:大型台風 など



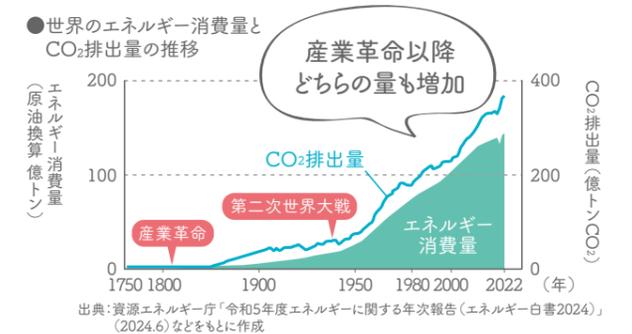
アフリカ:異常少雨による大干ばつ



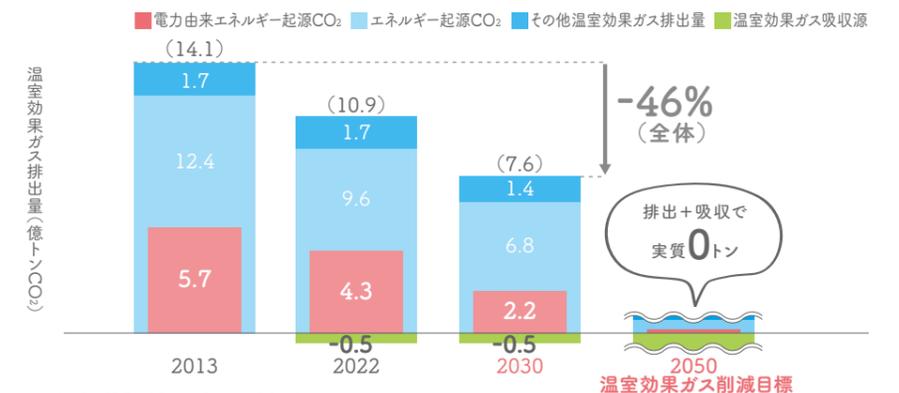
日本:大型台風

CO<sub>2</sub>などの温室効果ガス排出量削減目標として、  
日本は2030年度までに46%削減することを掲げています。

政府は2050年までにCO<sub>2</sub>などの温室効果ガスの排出を全体としてゼロとする「カーボンニュートラル」を目指すことを宣言しました。2021年10月には、2030年度までに温室効果ガス排出量を46%削減(2013年度比)し、さらに50%の高みに挑戦することを公表しています。  
日本のCO<sub>2</sub>排出量は、石炭や石油を燃料とする発電所などの電力分野が全体の約4割を占めており、目標達成にはその脱炭素化が必要です。



●温室効果ガス排出量の削減目標



関西電力グループでは、「ゼロカーボンビジョン2050」「ゼロカーボンロードマップ」を策定しました。

「ゼロカーボンビジョン2050」は、発電事業をはじめとする事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出を2050年までに全体としてゼロとするとともに、お客さまや社会のゼロカーボン化に向けて当社グループのリソースを結集して取り組むことを宣言したものです。取組みの大きな方向性としては、「デマンドサイド(需要側)のゼロカーボン化」「サプライサイド(供給側)のゼロカーボン化」「水素社会への挑戦」の3つです。このビジョン実現への道筋を明確にするため、「ゼロカーボンロードマップ(2022.3策定、2024.4改定)」を定めて、取組みを進めています。今後、ロードマップに掲げた取組みを進めることで、2025年度には発電によるCO<sub>2</sub>排出量を2013年度比55%減、2030年度には2013年度比70%減とするともに、お客さまや社会の皆さまのCO<sub>2</sub>排出量削減への貢献を目指します。



押さえておきたいワードはこれ!

カーボンニュートラル

温室効果ガスの排出を「全体でゼロとする」、つまり、排出せざるを得なかった分については同じ量を「吸収」または「除去」することで差し引きゼロを目指すということ。

カーボンニュートラルについては  
こちらから  
リンク先:環境省HP

